

【考察】本研究で作成した DFPP 理論式は、個々の患者の病態および様々な設定条件下で溶質濃度変化を予測でき、治療条件の決定、DFPP 施行時の安全性の確保などにおいて有用であることから、DFPP 理論式で溶質移動をシミュレートすることによって患者個々に適切な治療を施行できる可能性が示唆される。

## 〈一般演題 2 部〉

### 8. LDL アフェレシスが奏功したコレステロール塞栓症の 1 例

角谷裕之・吉村貴裕・森 大輔・伊藤大介  
松田 潤・村田尚子・竹治正展・西野雅巳  
山内 淳

大阪労災病院腎臓内科，循環器内科

症例は 65 歳男性，約 20 年来の糖尿病，高血圧，脂質代謝異常があり内服加療中。2008 年頃より労作時呼吸苦を自覚，2009 年 5 月に急性心不全発症。同年 7 月に心臓カテーテル検査を施行したところ冠動脈に 3 枝病変を指摘。約 4 ヶ月後に CABG 施行。術後経過は良好であり，血清 Cr 値 1 mg/dl 台後半を推移。退院後，3 ヶ月後の外来受診時の採血で血清 Cr 値 3.5 mg/dl と腎機能悪化。その 1 ヶ月後には血清 Cr 値 4.4 mg/dl まで上昇したため当院循環器内科入院。一過性の好酸球数上昇，足趾の紫色変化，疼痛が認められており同部位に対し皮膚生検施行。組織学的にコレステロール結晶が確認され腎機能悪化の原因として CABG 術後コレステロール塞栓症が考えられた。治療として 2 回/週，計 10 回の LDL アフェレシスとブレドニン 15 mg/日の内服を開始したところ，血清 Cr 値は 2 mg/dl 前半まで改善，下肢病変も軽快したため退院。

今回，高度な胸部大動脈粥状硬化病変を有し，CABG 施行後にコレステロール塞栓症を併発した 1 例を経験した。現在のところ確立された治療法がなく，腎予後は不良とされているが，体外循環及びステロイド加療にて腎機能の改善が認められたため，若干の文献的考察を含め報告する。

### 9. 閉塞性動脈硬化症による下腿潰瘍に LDL 吸着療法が有効であった透析患者の 2 症例（同時療法の工夫）

徳山炯斗<sup>\*1</sup>・西川一夫<sup>\*1</sup>・福田雅好<sup>\*1</sup>・生澤 篤<sup>\*1</sup>  
山元勝彦<sup>\*1</sup>・岩田義勝<sup>\*1</sup>・山崎智弘<sup>\*1</sup>・山畑妙子<sup>\*1</sup>  
仲宗根文弥<sup>\*1</sup>・松本健太郎<sup>\*1</sup>・吉矢邦彦<sup>\*2</sup>・原 章二<sup>\*3</sup>

原泌尿器科病院透析室臨床工学技士<sup>\*1</sup>，  
同腎臓内科<sup>\*2</sup>，同泌尿器科<sup>\*3</sup>

【症例 1】77 歳男性。既往歴：慢性腎炎を原疾患として透析歴 17 年。73 歳狭心症。74 歳下肢熱傷。主訴：右下肢の痛み。経過：3 年前より熱傷をきっかけに，下腿潰瘍を繰り返していた。平成 22 年 8 月右足第 4 趾の潰瘍の感染を契機に悪化し各種治療に抵抗性のため LDL 吸着療法を施行した。LDL 吸着療法の経過：LDL 吸着療法と血液透析の同時療法を週に 2 回施行した。血漿処理量 3,500～4,000 ml 施行し，潰瘍部の創は縮小し治癒傾向であった。軽度の血圧低下を認めたが，患者に時間的な拘束を与えることなく順調に同時療法を終了した。

【症例 2】80 歳男性。既往歴：腎硬化症を原疾患として透析歴 5 年。75 歳老年期痴呆。80 歳腰椎圧迫骨折。主訴：左下肢の痛み。経過：以前より定期的なフットケアにより API の異常（スケールオーバー）を指摘されていた。平成 22 年 5 月上旬より特に誘因なく左足第 1 と 2 趾，第 2 と第 3 趾の間に圧迫性の潰瘍を形成した。感染を合併し各種治療に抵抗性のため，LDL 吸着療法を施行した。LDL 吸着療法の経過：LDL 吸着療法は週に 1 回施行した。LDL 吸着療法終了後に別に血液透析を施行した。血漿処理量 1,700～4,000 ml 施行し，潰瘍部の治癒を認めた。血液透析時は血圧低下があり，長時間の治療となり患者の時間拘束は大きかった。

【考察】透析患者の閉塞性動脈硬化症は，高齢化のため増加している。一旦潰瘍を形成すると難治性であり，生命予後も不良である。私共の施設では，透析患者の重症な閉塞性動脈硬化症の治療方法として LDL 吸着療法を施行している。過去に 21 例の透析患者に対して LDL 吸着療法を施行した。うち 17 例は患者負担を軽減するために，血液透析と LDL 吸着療法の同時治療を施行した。長期的な効果は，21 例中 6 例は潰瘍が治癒し下肢切断を免れ有効と思われた。

【結論】LDL 吸着と血液透析の同時療法は，体外循環量が多く血圧の管理や両回路の運転状態など注意すべき点があり熟練された技術が必要となるが，患者の時間的な負担を軽減でき透析患者の閉塞性動脈硬化症に対して有効な方法である。

### 10. 潰瘍性大腸炎ステロイドナীব症例に対し血球成分除去療法（cytapheresis : CAP）が有効であった 1 例